

3歳児の年の計画

幼・保共通

年間目標

- 園生活の流れや生活のしかたがわかり、自分の身の回りのことをしようとする。
- 体を十分に動かしているいろいろな動きのある遊びを楽しみ、心地良さを味わう。

- 保育者や友達に親しみを持ち、友達とふれあいながら、安心して自分のしたい遊びに取り組む。
- 自分の要求や感じたことを自分なりの方法で表現する。

<p>子どもの姿と育てたい側面</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 新しい生活で緊張や不安を抱き、泣く子ども、保護者と離れにくい子ども、不安な表情の子どもなどがある。保育者に温かく受け入れられることで安心して徐々に活動を広げられるようにしていく。 ○ 園生活の流れがわかり、園生活のリズムにしだいに慣れていき、自分から動き始めて遊んだり、身の回りのことを自分で少しずつできたりするようにしていく。 ○ 初めはひとりで遊ぶことが多いが、しだいにそばにいる友達と同じ動きをしたり友達の遊びにも関心を持ったりする。他児といっしょに遊ぶ楽しさを保育者が仲立ちとなって知らせていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 保育者に親しみ、安定するにつれて、新しい活動にも自分から取り組み、遊びの場(行動範囲)を広げていく。 ○ 園の遊具や玩具に興味を示し、友達とふれあいながら、自分の好きな遊びに意欲的に取り組めるようになっていく。 ○ さまざまなことに好奇心を持つようになり、自分でいろいろ試してみる姿が見られるので、生活や遊びの中で見たり触れたり試したりする喜びを味わえるようになっていく。 ○ ひとりひとりが自己主張するようになり、物の取り合いなど、友達とぶつかり合うことが多くなっていく。そうした機会を通して友達存在に気づき、かかわり方を知らせていく。 			
<p>発達の節</p>	<p>I 期</p>		<p>II 期</p>		
<p>月</p>	<p>4</p>	<p>5</p>	<p>6</p>	<p>7</p>	<p>8</p>
<p>ねらい</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 喜んで登園し、保育者に親しみを持つ。 ○ 園生活の流れを知り、園の生活リズムに慣れる。 ○ 園の遊具や玩具に興味を持ち、自分から遊ぼうとする。 		<ul style="list-style-type: none"> ○ 園での生活のしかたがわかり、簡単な身の回りの始末を自分でしようとする。 ○ 遊びや生活を通して約束や決まりがあることを知っていく。 ○ 保育者や友達といっしょに生活することに慣れ、安心して動けるようになる。 ○ 自分の好きな遊びを十分に楽しみながら、友達のしていることにも興味を示す。 ○ 水や砂の感触を楽しみながら全身を動かす遊びに興味を持つ。 ○ 友達とふれあいながら、いろいろな遊びを楽しむ。 		
<p>指導内容の視点</p>	<p>心と体の健康</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 園における食事、排せつ、手洗い、うがい、着脱、所持品の始末などの基本的な生活のしかたを知り、保育者に手伝ってもらいながらも自分でしようとする。 <p>人とのかかわり</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 弁当や給食、おやつなどを、友達や保育者と楽しく食べられるようになる。 ○ 安定した雰囲気の中でひとりひとりに応じた休息を十分に取る。 ○ 室内や戸外で安心して遊具や玩具を使って遊ぶ。 ○ 戸外で体を十分に動かして遊ぶ。 <p>環境とのかかわり</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 自分のクラスがわかり、担任や友達を覚え、親しみを持つ。 ○ 保育者とのかかわりの中で気持ち良くあいさつをしたり、名前を呼ばれたら返事をしたりする。 ○ 自分のものをしまっておく場所がわかり、簡単な身の回りの始末を保育者に手伝ってもらいながらも自分でしようとする。 <p>言葉の育ち</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ したいこと、してほしいことを保育者に動作や言葉で伝えようとする。 ○ みんなでいっしょに保育者の話や絵本などを見たり、聞いたりすることを楽しむ。 ○ 飼育物や草花を見たり、触れたりしながら興味や関心を持つ。 ○ 知っている歌や手遊びをみんなといっしょに楽しむ。 <p>表現する力</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 土、砂、粘土、小麦粉粘土などの感触を味わいながら、楽しんで遊ぶ。 ○ 積み木、ブロック、ままごとなどに興味を持ち、ふれて楽しむ。 ○ 誕生会や身体計測、避難訓練などの行事に3歳児なりの取り組み方で参加する。 		<ul style="list-style-type: none"> ○ 食事、排せつ、手洗い、うがい、着脱、所持品の始末など、ひとりでしようしたり、できないことを保育者に伝えたりしようとする。 ○ みんなといっしょに食事をするを楽しむ。 ○ 追いかけてこや固定遊具の遊びなど、友達とかかわって遊ぶ楽しさを味わう。 ○ 自分の好きな遊びに喜んで取り組む。 ○ 物の取り合いなどの友達とのトラブルの中で、保育者の仲立ちで自分の思いを表現しようとする。 ○ 気に入った友達とふれあって遊ぶことを楽しむ。 ○ 友達のすることを見たり、まねたりしながら、いっしょに遊ぼうとする。 ○ 身近な教材や用具などの使い方を知り、興味を持って使おうとする。 ○ 水遊び、泥遊び、砂遊び、プール遊びなど、開放感が味わえる遊びを十分に楽しむ。 ○ 自分の経験したことや思いを、保育者や友達に話そうとする。 ○ 梅雨時の自然の変化に興味を持つ。 ○ 夏野菜の生長のようすに気づき、収穫を楽しみにする。 ○ いろいろなものになったり表現したりして遊ぶことを楽しむ。 ○ 音楽に合わせて体をリズムカルに動かしたり、簡単な身体表現をしたりして楽しむ。 ○ 新しい歌を覚えて友達といっしょにうたったり、いろいろな音のするものに触れたりする。 ○ フィンガーペインティングや絵の具などでのびのびと描く楽しさを味わう。 		
<p>環境構成の要点</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 生活のしかたはひとりひとりに応じて援助していき、年長児の活動を見たり手伝ったりしながら、自分でしようとする気持ちを育てる。 ○ 靴箱、ロッカーなどにその子のマークを付け、食事、排せつ、持ち物の整理などは繰り返して行ない、安心して覚えられるようにする。 ○ 保育者が戸外の遊具や砂場を安全で清潔に環境整備し、子どもたちがのびのびと使えるようにする。 ○ 室内の遊び場所は、家庭的な雰囲気をつくり、安心して好きな遊びができるように配慮する。 		<ul style="list-style-type: none"> ○ 物の種類や形に合わせて、かたづけがスムーズにできるように箱や棚を用意し、分類や整理がしやすいようにマークを付ける。 ○ 子どもの興味をとらえて楽しめるような材料や用具、やりたいときにできる時間や場、遊具の数を考える。 ○ 着替えや手洗いなどは自分からしたくなるように場を整え、手順がわかるように絵やカードなどを使い、示しておく。 ○ 気温に合わせて水遊びやプール遊びができるように、場や遊具などを整えて使えるようにしておく。 ○ ひとりひとりの健康状態に留意し、快適な環境のもとで生活できるようにする。 ○ 友達と同じものを持ったり身に付けたりできるように、遊具などの数や置き場などに配慮する。 		
<p>☆保育者のかかわり・援助(養護含む)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ☆ひとりひとりを温かく受け入れ、どの子どもも安心感を持てるように心がけて小さなサインも見逃さないように配慮する。 ☆好きな遊びを見つけれられるようにいっしょに遊んだり、興味を持てるような誘いかけをしたりする。 ☆新しい環境の中で活動範囲が広がってくるので安全に過ごせるように配慮する。 		<ul style="list-style-type: none"> ☆子どもの言葉や表情から思いを受け止めたり、共感したりしながらかかわっていく。 ☆ひとりひとりのペースを大切に、「おもしろそう」「やってみよう」という気持ちを持てるような雰囲気を心がける。 ☆生活習慣は、ひとりひとりの自分でしようとする気持ちを大切に、認めて自信を持てるようにしていく。 ☆物の取り合いなどのトラブルが出てくるので、互いの気持ちを受け止めたり、代弁したりして、状況に応じて対応していく。 ☆暑さを考慮し、適度な水分補給と、休息を十分に取れるような配慮をする。 		
<p>家庭や地域との連携(保育園・幼稚園・小学校との連携も含む)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 子どもを初めて集団生活に入れる保護者の思いや不安な気持ちを受け止め、子育ての大切さや喜びなどに共感し、信頼関係を築いていく。 ○ 保護者に安心してもらえるよう、園でのようすを話したり、家庭のようすを聞いたりする機会を持つ。また、保護者会、クラス便りやホワイトボードなどで発信したりすることを通して、園での姿を具体的に伝えていく。 ○ 入園当初の健康状態を把握し、保護者との連絡を密にしておく。 ○ 保護者会で緊急時の避難マニュアルを説明し、連絡先の確認や、緊急時の引き取り方法などを、具体的に確認しておく。 		<ul style="list-style-type: none"> ○ 園生活の中で、自分の力で努力している姿を伝え、家庭でも自分でできたことは時間的な余裕を持って行なうようにしてもらう。 ○ ひとりひとりの健康状態を、健康カードや連絡帳で知らせ合い、家庭との連携を密にしておく。 ○ 体の清潔さ、着脱しやすい衣服の準備などに配慮しながら、夏の健康に関心を持てるよう連絡を深める。 ○ 夏の生活のしかたについて保護者会を開いて知らせ、食事・睡眠・体調管理などの問題や、直接体験の大切さを伝えていく。 		
<p>苦手分野における活動例</p>					

- 園生活を楽しみにし、自分のしたい遊びに夢中になる子どもがいる反面、休み明けに不安定な子どももいる。ひとりひとりが十分に楽しめるように援助していく。
- 身の回りの始末や排せつなどの基本的な生活習慣を自分でしようとするが、まだ個人差が大きい。自分から取り組み自分でできる喜びを味わえるようにする。
- 保育者の言葉による指示を聞いて行動したり、友達といっしょに動いたりする楽しさを味わえるようになる。
- 友達といっしょに同じ遊びをする楽しさを感じ、友達とのかかわりが深まっていくようにする。そのため、自分の思いや考えを通そうとして、トラブルが起こることもある。その中で相手の気持ちにも徐々に気づくようにしていく。
- 自分のイメージを、言葉や動き、造形遊びなどで自由に表現することを楽しむようになるので、自分の思いをのびのびと表現する喜びを感じられるようにしていく。

Ⅲ 期

9	10	11	12
---	----	----	----

- 保育者や友達といっしょに生活することを楽しみ、話したり聞いたり、会話を楽しんだりする。
- 経験したこと、感じたこと、想像したことなどを、さまざまな方法で表現する。
- クラスの友達といっしょにみんなで遊ぶ楽しさを味わう。
- 日常生活の中で自分でできることは進んでしようとする。

- 友達と簡単なルールのある鬼ごっこなどをし、みんなといっしょにすることを喜ぶ。
- 自分のしたい遊びが見つかり、その遊びに必要な遊び道具や材料などを自分で選べるようになる。
- 好きな遊びを繰り返し楽しむことで、遊び方がしだいに巧みになる。
- 行事を通して年中児や年長児とふれあい、楽しさを共に感じたり、年長児に対するあこがれを感じたりする。
- 木の葉、木の実、小石などを集め、それらを使って、いろいろな遊びをする。
- 年長児や保育者が虫や小動物の世話をするのを見たり触れたりして興味を持つ。
- 身近なものの色・形・多い・少ない、大きい・小さいなどの違いに気づく。
- 遊びの中で道具の安全な使い方や置き方に気づく。
- 散歩など園外に出たときは、友達や保育者といっしょに安全に気をつけて行動しようとする。
- 自分の気持ちや困っていること、してほしいことなどを、保育者に自分なりの言葉や方法で伝えようとする。
- 遊びの中で、友達とのやりとりを楽しみながら、生活に必要な言葉を知っていく。
- リズムに合わせて体を動かしたり、身近な動物や乗り物の動きを体で表現したりして楽しむ。
- 身近な素材で好きな物を作り、それを使って遊ぶことを楽しむ。
- 絵本や紙芝居などを保育者に何度も読んでもらったりしながら、絵本の世界を楽しむ。
- 積み木などで遊びの場（乗り物、家 など）を、友達や保育者といっしょに作って遊ぶ。
- 自分の好きなものを描いたり作ったりしながら、イメージの世界を楽しむ。
- 友達や保育者と走ったり、思い切り体を動かしたりする心地良さを体験する。

- いろいろな行事などに、無理なく参加できるような取り組み方を工夫する。
- ひとりひとりの興味や関心に合わせて遊びに使うものを自由に使えるように、いろいろな用具を用意する。
- 自然の中で自分たちで見つけたもの（石、枝、木の実 など）や身近な材料などを利用して造形遊びが楽しめるようにしておく。
- 運動会がきっかけとなって、異年齢児のまねをしたり、ゲームを繰り返し楽しんだりできるように、必要なものを身近に置いておく。
- 全身を使った遊びが繰り返し楽しめるような環境の工夫を心がける。
- 活動や運動量に応じた食事の開始時間や量など、時期に応じて調理員と連携を取り進めていく。

- ☆ひとりひとりの子どもの表情や身ぶりや言葉など、表現している子どもの気持ちを感じ取り、必要に応じた援助をする。
- ☆自分からやってみようという気持ちを認めて励ましたり、難しいときには手を貸しながらも、子ども自身のやる気を引き出し、満足感が味わえるようにかかわる。
- ☆子どもの思いや見たりなどを受け止めたり、いろいろな遊び方を知らせたりして、遊びを楽しめるようにする。
- ☆園の内外で自然にふれられる場や機会を設け、楽しめるようにする。
- ☆友達との道具の取り合いなどのトラブルではひとりひとりの気持ちを受け止め、相手の気持ちにも気づけるようにする。
- ☆行動範囲が広がっていくので、時間や環境の整備を行なうとともに、遊びの中で安全指導を行なっていく。

- 親子で行事に参加して楽しみながら子どもの成長に気づいたり、親子のふれあいの大切さを感じ取ったりしてもらう。
- 運動会や園外保育などでは、いっしょに参加しながら、自分の子どもだけではなくクラスの友達やほかの年齢の子どもたちのようすも見ながら、3歳児の成長を理解してもらう。
- 寒さに向かった健康上の必要性や、生活習慣（生活リズムを守る、衣服の調節、うがいの励行 など）の方法を具体的に伝える。

- 身の回りのことや生活に必要なことなど、自分でしようとする気持ちを大切に、できた喜びを味わえるようにする。
- 安定した気持ちで園生活を送るようになり、仲のよい友達と遊んだり、友達や保育者の手伝いをしたり、異年齢児とふれあったりして行動範囲が広がってくる。
- 体験したことや想像したことを自分なりに話し、言葉での表現が豊かになってくるとともに簡単な形を描いたり、切ったりする姿や、曲に合わせて歌ったり踊ったりする姿が見られるようになる。それぞれの表現を認めながら、さまざまな表現活動を楽しめるようにしていく。
- この1年間で成長したことを共に喜び、進級を楽しみにしていけるようにする。

Ⅳ 期

1	2	3
---	---	---

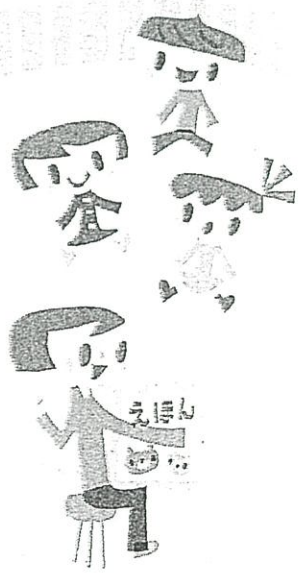
- 基本的な生活習慣が身につく、自信を持つてのびのびと行動する。
- 友達と遊んだり話したり歌ったりすることを喜び、いっしょに活動しようとする。
- さまざまな造形遊びで自分なりに表現することを喜び、意欲的に取り組む。
- 大きくなる喜びと進級に対する期待を持って生活する。

- 手洗い、うがい、着脱、排せつなどの手順や意味を理解し、見通しを持って自分からしようとする。
- 全身を使った遊びを十分に、寒くても活動的に元気よく過ごそうとする。
- 年長児や年中児の遊びに参加したり、年下の子ともたちとふれあったりして楽しむ。
- 集団としていっしょに行動することを楽しむ。
- 友達が困ったり泣いたりすると、なぐさめたり保育者に伝えたりするなど、相手の身になって助けをしようとする気持ちが出てくる。
- 順番や交代することがわかり、並んで待ったり交代で道具を使ったりする。
- 伝統的な正月遊びや行事にふれて遊ぶ。
- 霜柱、雪、氷など、冬の自然を見たり触れたり体で感じたりする。
- 公共物や共有するものを大切に扱おうとする気持ちが持てるようになる。
- 物や場所の安全な使い方がわかり、自分から気をつけて遊ぼうとする。
- 遊んだ後、かたづけをすときれいになる心地良さが感じられるようになる。
- 悲しいこと、うれしいこと、考えたことを言葉に出して表現する。
- 絵本や紙芝居などをみんなで楽しみ、好きな登場人物になり切って遊ぶ。
- 描いたものや作ったものを、保育者といっしょに飾ったり使って遊んだりする。
- 好きな絵本や紙芝居などを使って、ごっこ遊びやお話遊び、表現遊びをして楽しむ。
- 音楽に合わせてさまざまな楽器を友達同士で自由に鳴らして楽しむ。
- 季節や発達に応じて行事に参加し、いろいろなことを表現する喜びを味わったり、友達の表現を見て楽しんだりする。
- ごっこ遊びを通して、言葉のやりとりを楽しんだり、必要なものを作ったりして遊ぶ。

- 年長児と遊ぶ場を設定して、年長児の優しさや頼もしさにふれるようにする。
- 暖房・換気・寒さへの対応をするなど、安全・健康な環境に留意する。
- 好きな友達といっしょに遊ぶ場や、見たてたりつもりになったりして遊べるような玩具や用具などを用意しておく。
- 年中児の保育室へ行くなどして、進級に期待を持てるようにする。
- さまざまな遊びが発展し、継続していくように道具や材料の準備や置き方に配慮し、積極的に取り組みたいような空間づくりを心がける。

- ☆ひとりひとりの子どもが、自分なりにのびのびと充実した園生活が送れているか把握し、個々の成長を認め、自信が持てるようにする。
- ☆基本的な生活習慣が身についたか確認し、ひとりひとりの自立へ向けて援助していく。
- ☆子ども同士でいっしょに遊べるような環境を用意したり、保育者もいっしょに仲間に入りながら必要に応じ言葉をかけるようにしたりする。
- ☆園生活や家庭内の生活で、3歳児なりに公共心や役割を持って手伝うことの大切さを伝える。

- 自己主張や自立心が強くなるが、まだ甘えたい気持ちもあることを理解して、温かく受け止めるよう家庭と園での連携を取り合う。
- 発表会などで発表する内容やそのプロセス、目的などを、事前に園便りなどで伝え、保護者から子どもにその成長を認める言葉をかけてもらうようにする。
- 個人面談で1年間の歩みを保護者と共に振り返り、子どもの成長を喜び合うなど、進級に向けて有意義な機会にする。



4歳児の年の計画

幼・保共通

年間目標

- 園生活に慣れ、喜んでいろいろな活動に取り組み、日常生活に必要な習慣や態度を身につける。
- 全身を動かして遊ぶ楽しさを味わう。
- いろいろな遊びに興味を持ち、保育者や友達とのかかわりを広げる。

- 身近な社会や自然の事象に興味や関心を持ち、発見を楽しんだり、考えたりして生活に取り入れる。
- 遊びの経験を広げ、いろいろな方法で表現する。
- いろいろな経験を通して生活に必要な言葉を身につける。

子どもの姿と育てたい側面		<ul style="list-style-type: none"> ○ 新しい生活に楽しみを感じつつも、不安を抱いたり、緊張したりする子どもがいるので、しだいに保育者に親しみを持ち、安心感や信頼感が持てるようにしていきたい。 ○ ひとりで遊ぶ子、同じ場所にも友達とのかかわりがまだ見られない子、なんとなく保育者の周りにはいる子など、さまざまなようすの子どもがいて、ひとりひとりが安心して居場所を見つけ、自分からやりたいことを見つけて十分に遊べるようにしていきたい。 ○ 園生活の1日のおおその流れがわかり、自分でできることは自分でしようとする意欲を育てたい。 	
発達の節		I 期	
月		4	5
ねらい		<ul style="list-style-type: none"> ○ 園生活に慣れ、保育者に親しみを感じて安心して過ごす。 ○ 生活のしかたがわかり、できることは自分でしようとする。 ○ 自分で好きな場や遊具、遊びを見つけて自分から遊ぶ楽しさを味わう。 ○ 保育者や友達とふれあって遊ぶ楽しさを味わう。 ○ 戸外で身近な自然にふれて気持ち良く過ごす。 	
指導内容の視点	心と体の健康	<ul style="list-style-type: none"> ○ 食事・排せつ・着脱などの基本的な園での生活のしかたを知り、自分でしようとする。 ○ 保育者といっしょに体を動かして遊ぶことを楽しむ。 ○ 園の遊具や用具に親しみ、安全な遊び方や扱い方を知る。 ○ 交通の決まりや安全な歩行や避難のしかたを知る。 ○ 園での1日の流れや生活のしかたを知る。 	
	人とのかかわり	<ul style="list-style-type: none"> ○ 持ち物の準備や始末を自分でしようとする。 ○ 保育者に親しみを持ち、かかわって遊ぶ。 ○ 友達といっしょに食べることを楽しむ。 	
	環境とのかかわり	<ul style="list-style-type: none"> ○ 友達と同じことをしたりふれあったりして楽しむ。 ○ 戸外で身近な自然にふれ、心地良さを味わう。 ○ 身近な遊具や用具などの扱い方を知り、それを使って遊ぶことを楽しむ。 	
	言葉の育ち	<ul style="list-style-type: none"> ○ 日常生活に必要なあいさつをする。 ○ 友達といっしょに保育者の話を親しみを持って聞く。 ○ してほしいことや困ったことなどを保育者にいろいろな方法で伝えようとする。 	
	表現する力	<ul style="list-style-type: none"> ○ 絵本や童話を見たり、聞いたりして楽しむ。 ○ 歌をうたったり、手遊びをしたりして楽しむ。 ○ 自由に描いたり、作ったりすることを楽しむ。 ○ 生活の中で、いろいろな音・形・手触りなどがあることを感じて楽しむ。 	
環境構成の要点		<ul style="list-style-type: none"> ○ 楽しく登園できるように、家庭での遊びと関連のある材料や遊具を準備するとともにひとりひとりが落ち着ける場を確保する。 ○ 徐々に遊具の種類を多く用意し、ひとりひとりの子どもが自由に使い、無理なく新しいことにも興味を持って参加できるようにする。 ○ 進級児には、今まで親しんできた遊具などを用意し、集団生活の経験の違いに配慮する。 ○ 好きなことが見つかったら、少人数でじっくり取り組めるような場を作って安心して遊べるようにする。 	
☆保育者のかかわり・援助(養護含む)		<ul style="list-style-type: none"> ☆保育者はひとりひとりの子どもを温かく受け止め、ふれあう中で安心感を与え、園生活の楽しさや生活のしかたがわかるようにしていねいにかかわる。 ☆新しい環境の中で、周りのようすを気にする子もいるので、自分をすなおに表せるように、ありのままの姿を受け止め、ていねいにかかわっていく。 ☆保育者は楽しい、おもしろいと思えるような遊びを考えて、子どもといっしょに楽しむ。 ☆新入園児と進級児の遊び方や生活のしかたの違いに配慮し、ひとりひとりが安心して取り組めるようにする。 	
家庭や地域との連携(保育園・幼稚園・小学校との連携も含む)		<ul style="list-style-type: none"> ○ 子どもたちの緊張と不安を十分に受け止めるとともに、安心して登園できるように保護者から家庭でのようすを聞き、理解に努める。 ○ 緊急時の連絡方法や避難場所、登降園時の交通安全について保護者へ説明し、協力を依頼する。 ○ 園便りや連絡帳、保育参観などを通して子どものようすをこまやかに伝え、園と家庭が互いに情報交換しながら子どもの成長を支え合うことができるように関係をつくる。 	
苦手分野における活動例			

- 生活範囲が広がり、活発に活動するようになる。さらに新しい事物への関心を高め、チャレンジする。戸外で思う存分体を動かして遊ぶ楽しさを体験しながら安全な遊具の扱い方を知るとともに、自然とのかかわりを十分に持てるようにしたい。
- ほかに子への関心が出てきて、新しいかかわりが生まれ、同じ場所で遊ぶことを喜んだり、いざこざになつたりする。さまざまな機会を通して友達とふれあい、いっしょに遊ぶ楽しさを味わわせたい。
- 保育者とのかかわりも楽しさが増し、遊びへの課題の投げかけにも自分なりにやってみようとするようになる。子どもの興味や関心を生かして新しい遊びの楽しさが味わえるようにして、経験の幅を広げていきたい。

II 期

- | | | |
|--|---|---|
| 6 | 7 | 8 |
| <ul style="list-style-type: none"> ○ 戸外で体をいろいろな動かし遊ぶ楽しさを味わう。 ○ 友達とのふれあいの中で、いっしょに遊ぶことを楽しむ。 ○ 思ったことや考えたことなどを表現し、いろいろな素材や用具の扱いを知る。 ○ 身近な自然にふれて、見たり遊んだりすることを楽しむ。 ○ 梅雨時や夏の過ごし方を知り、季節感のある遊びを十分に楽しむ。 | | |

- いろいろな遊びの中でのびのびと体を動かす。
- 全身を使って水遊びを楽しむ。
- 遊具や用具の扱い方を知り、安全に使って遊ぶ。
- 梅雨や夏を健康に過ごすために必要な生活のしかたを知る。
- 園生活の決まりに気づき、約束を守ろうとする。
- 身の回りの始末やかたづけなど、自分のことは自分でする。
- 簡単なルールのある遊びを楽しむ。
- 友達に親しみを持ち、同じことをしたりかかわったりして遊ぶ。
- 身近な動植物を見たり、触ったり世話をしたりしながら興味や関心を持つ。
- 雨、風などの音、草花の色などに興味を持ち、不思議さや美しさを感じる。
- 土や砂、水の感触を味わいながら自分なりに試したり発見したりして楽しむ。
- 夏野菜を育てることに興味を持ち収穫や食べることを楽しむ。
- 具体的な物を通して、数や量、色や形などに関心を持つ。
- 日常生活や友達との遊びの中で必要な言葉の使い方に気づく。
- したいことやしてほしいこと、思ったことなどを保育者や友達に言葉で伝える。
- クラスの友達といっしょに絵本や童話などを興味を持って見たり、聞いたりする。
- 歌や曲に合わせて楽器を使ったり、自由に動いたりして楽しむ。
- 自分のなりたいものになって、動く楽しさを味わう。
- 粘土など、作ったり壊したりすることを繰り返して工夫して遊ぶ。
- 身近にあるいろいろな素材や用具に親しみ、描いたり、作ったりすることを楽しむ。

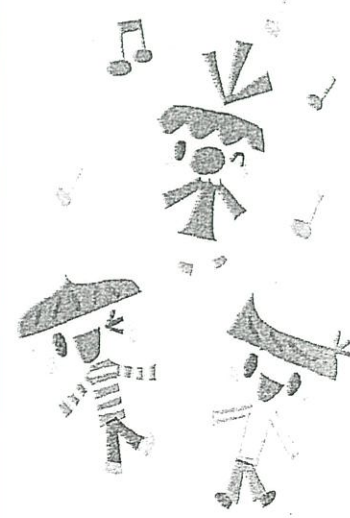
- 子どもが園での遊びに興味や関心を持って自分から遊びや活動に取り組めるよう環境を構成し、ひとりひとりの遊びや興味の変化を把握して、環境を再構成する。
- 自然と十分にふれあいが持てるよう、園庭の栽培物、小動物などの環境を整備しておく。
- 梅雨や夏ならではの季節を感じるように環境を構成するとともに、静と動のバランスを考え、気持ちを発散できるように工夫する。
- 新しい素材や遊具との出会いのコーナーをつくり、興味を広げていく。
- 日陰づくりや水分補給など、熱中症の予防に配慮する。

- ☆友達との接し方や遊びへの参加のしかたがわかるよう、場面をとらえて保育者が仲立ちとなり援助する。
- ☆ひとりひとりの子どもを理解し、気持ちを受け止められた喜びが感じられるよう働きかけをして、信頼感を深めていく。
- ☆新しい遊びの楽しさが味わえるように、保育者がモデルとなって積極的に提案していく。
- ☆みんなでルールのある遊びが楽しめるように、クラスでのゲーム遊びなどでは、視覚的にルールを知らせ、場所や時間に配慮していく。
- ☆汗をかきやすいので水分の補給、着替えなどひとりひとりのようすを把握して、自分でできるように促す。
- ☆適度に休息を取れるよう、活動の時間や流れ、場の工夫をする。

- 子ども同士のいざこざなどは、発達のしぜんな姿で、成長の機会であることを知らせ、理解や協力を求めていく。
- 保育参観・保育参加の行事の中で子どもの育ちを伝えて、園の保育方針の理解を促す。
- 保護者の不安や疑問にはいねいに対応し、家庭との信頼関係を築くようにする。
- 家庭地域訪問などを通して、子どもの生活環境を把握し、必要に応じて安全対策などの協力を依頼する。
- 園での生活や遊びのようすを通して子どもの成長(姿容)を相互理解し、共に子育てをして信頼関係を深めていく。

<ul style="list-style-type: none"> ○ 9月の始まりは登園や集団生活のリズムになじめない子どもも見受けられる。園生活を取り戻すのも早い。ひとりひとりが自分の思いをすなおに出せるようにしていきたい。 ○ 全身運動が活発になり、いろいろな運動をすることを喜んでいる。友達とかかわりながら体を動かす心地良さを味わわせたい。友達との遊びを通して生活の決まりや遊びのルールの大切さに気づくようにしたい。 ○ 身の回りの自然物や事象、いろいろな材料などに興味を持ち、かかわりを持ったり、試したりするようになる。ひとりひとりがイメージをじっくりと表現する楽しさを味わえるようにしたい。 		<ul style="list-style-type: none"> ○ 周りの人や物への興味や関心が強くなり、自分もやってみようとする意欲や、がんばろうとする気持ちが見られる。ひとりひとりの子どもの気持ちや考えを理解して受容し、その子なりにやり遂げた満足感が持てるようにしたい。 ○ 友達とかかわりが増えてくるので、友達との遊びを通して、自分の気持ちを相手に伝えたり、話を聴いたりして、友達と遊ぶ楽しさを味わわせたい。 ○ 自分の思いや感じたことをその子なりに表現してくるので、その表現を受け止め、楽しませたい。 	
Ⅲ 期		Ⅳ 期	
9	10	11	12
<ul style="list-style-type: none"> ○ さまざまな体の動きを楽しみ、遊びをやってみようとする気持ちを持つ。 ○ いろいろな素材に親しみ、イメージや思いを自分なりに表現して楽しむ。 ○ 友達とかかわる中で、自分の思いを、動きや言葉で表し、遊びを楽しむ。 		<ul style="list-style-type: none"> ○ 遊びや生活の中で、友達とかかわりながら遊ぶ楽しさを味わう。 ○ 自分たちで遊びの場を作ったり、見たこと、感じたことをさまざまな方法で表現したりすることを楽しむ。 ○ 身近な自然と十分にふれあい、興味を持って見たり触れたり、遊びに取り入れれたりする。 	
<ul style="list-style-type: none"> ○ 生活リズムを取り戻し、健康な生活に必要な習慣を身につける。 ○ いろいろな遊具や用具を使い、戸外で体を動かして遊ぶことを楽しむ。 ○ みんなとひとっしょに運動する楽しさを味わう。 ○ 休息のしかたがわかり、運動や食事の後は静かに過ごす。 ○ 旬の食材から季節感を感じて味わうことを楽しむ。 ○ 安全な遊び方や防災時の行動のしかたを知り、気をつけて行動する。 ○ 簡単な決まりやルールの大切さに気づく。 ○ 気の合う友達とかかわりを楽しみ、自分の思いを伝えようとする。 ○ 地域の高齢者など、身近な人にかかわり、親しみを持つ。 ○ 共同の遊具や用具を大切に、みんなで譲り合って使ったり、かたづけたりする。 ○ 身近な秋の自然にふれ、遊びの中に取り入れて楽しむ。 ○ したこと、見たこと、感じたこと、考えたことを保育者や友達に話す。 ○ 絵本や童話に親しみ、興味を持って聞き、想像することでお話の世界を楽しむ。 ○ 音楽に合わせて体を動かしたり、感じたままを自由に表現して楽しむ。 ○ 感じたことや考えたことを言葉を使ったり、描いたり、作ったりして表現することを楽しむ。 		<ul style="list-style-type: none"> ○ 戸外での簡単なルールのある遊びに喜んで参加し、友達と体を動かすことを楽しむ。 ○ クラスのみんなとひとっしょに作ったものを食べる楽しさを味わう。 ○ 友達と楽しく生活する中で決まりの大切さに気づき守ろうとする。 ○ 友達と遊びの場や遊びに必要な物を作り、イメージを具体的に表して遊ぶ。 ○ 自然物などを集めたり、数えたり、分けたり並べたりすることに興味を持つ。 ○ 初冬の自然や人間の生活に変化のあることに気づく。 ○ 自然の美しさにふれて心を動かしたり、自然物を使って遊ぶことを楽しんだりする。 ○ 身近な地域の出来事に興味を持ち、生活に取り入れる。 ○ 公共の場での過ごし方を知る。 ○ 自分の気持ちを相手に伝え、友達の話をよく聞こうとする。 ○ 絵本や童話などを喜んで見たり、聞いたり、ストーリー再現したりして、いろいろな表現を楽しむ。 ○ 歌や簡単な合奏をみんなで楽しむ。 ○ いろいろな材料を自分のイメージに合わせて見たり、工夫して使う。 	
<ul style="list-style-type: none"> ○ 園庭の整備と遊具の点検を行ない、体を動かしたくなる環境をつくり十分に運動が楽しめるようにする。 ○ 友達とかかわりが持てる場を工夫し、ひとっしょに活動する喜びが味わえるようにする。 ○ 個々の子どもがそれぞれの興味に応じた活動に取り組めるような素材や用具を十分に用意し、やってみようとする意欲が持てるようにする。 ○ クラスのみんなで鬼ごっこやゲームなど、園内の場を調整して繰り返してできる環境づくりをする。 		<ul style="list-style-type: none"> ○ 子ども同士がひとっしょに活動する楽しさが味わえるように交流の場を設け、簡単なイメージが伝え合えるような素材を用意する。 ○ 寒さの中でも、戸外で遊べるように簡単なルールのある集団遊びなど、体を十分に動かして楽しさを味わえるような遊びを提示する。 ○ 体全体で季節を感じて遊べるように、冬の自然との出会いの機会を生かす。 	
<ul style="list-style-type: none"> ☆ 子ども同士の模倣や認め合いを大切にしながら、表現する意欲や創造性を育てるように配慮する。 ☆ 飼育物や捕まえた虫などとのふれあいの中で、機会をとらえて生長や命について気づかせる。 ☆ 保育者も子どもとひとっしょに体を動かし、運動遊びの楽しさを味わえるように、日常の体験から運動会へのつながりを大切にする。 		<ul style="list-style-type: none"> ☆ 季節や、事象の変化にふれる機会を持つようにし、保育者自身が身近な事象を敏感に受け止め、子どもの感動や発想を引き出し、豊かになるように援助する。 ☆ トラブルが生じたときは双方の気持ちを受け止め、相手の気持ちに気づけるようにする。 ☆ さまざまな表現が楽しめるように、ひとりひとりの思いやイメージを受け止め、共感する。 	
<ul style="list-style-type: none"> ○ 運動会などの園行事の意味や考え方を理解して協力してもらうために、具体的な内容や方法・過程について知らせる。 ○ 保護者が子どもとひとっしょに活動を楽しむことを通して、子どもの成長のようすや取り組みようとしての意欲など、子どもの姿を理解しやすいように伝える。 		<ul style="list-style-type: none"> ○ 作品展を通し、子どもらしいのびのびとした表現の大切さを伝えるとともに、家庭でも豊かな生活経験が必要であること、親子のふれあいを深めることを発信していく。 ○ 保護者同士で話し合う機会や活動の場を持つようにし、親しみを深め、互いに高まっていこうとする関係づくりに配慮する。 	

<ul style="list-style-type: none"> ○ 保育者や友達とかかわり過ごすことを楽しいと感じている。その子なりに成長に向かう姿を大切にしていきたい。 ○ 新しい活動にも進んで取り組み、試したり工夫したりして遊ぶようになる。年長組になる自覚を高めながら遊びや生活習慣について、自主的に取り組む態度を養いたい。 ○ 決まりを守ろうとする気持ちも芽生え、ルールのある遊びも楽しむようになる。問題が起きたときは保育者の援助に支えられて解決しようとする姿が見られる。仲のよい友達と遊ぶ中でいろいろなイメージを膨らませたり、相手に自分の考えを伝えたりして、遊びを進められるようにしたい。 ○ 冬から春へと移る季節の変化への気づきをとらえ、身近な自然への好奇心を高めていきたい。 		
Ⅴ 期		
1	2	3
<ul style="list-style-type: none"> ○ いろいろな遊びに興味を持ち、保育者や友達とかかわり、自分の力を発揮して、活動に取り組む。 ○ 友達とひとっしょに試したり、工夫したりして遊びを進める楽しさを味わう。 ○ 生活や遊びの決まりを守り、基本的な生活習慣や態度を身につけ、進級することへの意欲を持つ。 		
<ul style="list-style-type: none"> ○ 自分でできることは自分で行ない、基本的な習慣を身につける。 ○ 自分の健康に関心を持ち、さまざまな食べ物を進んで食べる。 ○ 行事を通して、伝統的な日本の食生活や習慣を知る。 ○ 戸外で全身を思い切り動かして遊び、みんなとひとっしょの遊びを味わう。 ○ 簡単なルールをつくり出し、友達とひとっしょに遊びを楽しむ。 ○ 危険なものや危険な箇所を知り、安全に気をつける。 ○ よいことと悪いことがあることに気づき、考えながら行動する。 ○ 自分なりの目当てや見通しを持って行動しようとする。 ○ 園行事などで友達とひとっしょに楽しみながら、自分の役割をしようとする。 ○ 友達と楽しく生活する中で、決まりの大切さに気づく。 ○ 身近な物や遊具に興味を持ってかかわり、試したり工夫したりして遊ぶ。 ○ 冬から春にかけての自然事象に興味や関心を持ち、感動したり疑問を持ったりする。 ○ 草木や風のようなものに気づき、冬から春への自然の変化を感じ取る。 ○ 生活や遊びの中で数量や図形や文字などに興味を持つ。 ○ 自分の思ったり考えたりしたことを、言葉で相手に伝えようとする。 ○ 保育者や友達の話に注意して聞き、内容をわかろうとする。 ○ 自分のイメージを動きや言葉や音楽などいろいろな方法で表現して遊ぶことを楽しむ。 ○ 遊びに必要なものを工夫して描いたり作ったりして、それを使って友達と遊ぶ。 ○ 身の回りの環境を整えることや、作品を見たり飾ったりすることに興味を持つ。 ○ 進級することに期待を持ち、楽しみにする。 		
<ul style="list-style-type: none"> ○ 年末年始の冬休み明けは、家庭での経験や話したり聞いたりする喜びを味わえるような機会をつくる。 ○ イメージをいろいろな表現できるような材料を用意し、自分で考えたり、試したり、工夫したりして遊びを進められるようにする。 ○ いろいろな遊びや生活、当番の仕事などを体験しながら引き継ぎが行なわれるように年長児との交流ができる場を構成する。 ○ ごっこ遊びなどにじっくり取り組めるよう遊びの場を構成し、展開に応じて変化させていく。 		
<ul style="list-style-type: none"> ☆ 同じ目的や興味を持つ友達の考えが伝わるようにいろいろな方法で援助し、自分たちで遊びが展開できるようにする。 ☆ 友達とかかわりの中でひとりひとりのアイディアを認めたり、取り入れたりするように援助し、それぞれの子どもが自己発揮できるようにする。 ☆ 遊びや生活の中で、年長児からいろいろな当番の仕事のしかたを教えられる場や機会を設ける。 		
<ul style="list-style-type: none"> ○ 子どもの成長の姿を具体的に保護者に知らせ、保育者と保護者とで成長の喜びを共有する。 ○ 基本的な習慣や態度、遊び方、友達関係などの日常生活のしかたなど、保護者の不安や疑問を受け止めるとともに、進級に向けての課題について保護者と共に考え、期待が持てるようにしていく。 		



5歳児の年の計画

幼・保共通

年間目標

- 健康な生活リズムを身につけ、友達と体を十分に動かし、心地良さや楽しさを味わい進んで運動する。
- 友達といっしょに園生活を十分に楽しみ、意欲的に遊びや生活に取り組むとともに、主体的に行動して充実感を味わう。

- クラスの友達とのかかわりを通して社会生活における必要な態度を身につけ、みんなで協力したり役割を分担したりしながら（協同性）、目的を成し遂げる喜びを味わう。
- 生活の中で必要な言葉を身につけ、自分の気持ちを表現するとともに、伝わる喜びや伝え合う心地良さを味わう。

- 自然や身近な事象に好奇心や探究心を持ち、生活に取り入れていく。
- さまざまな表現を楽しみ、意欲的、創造的に遊びや行事などに取り組む。
- さまざまな体験を通して豊かな感性をはぐくみ、表現することの楽しさを味わう。

子どもの姿と育てたい側面		○ 年長児になったことの喜びや期待が見られ、年中組からのつながりのある友達といっしょに遊ぶとする。中には緊張感や不安感を持つ子どももいるので、ひとりひとりの心に添った援助をしながら年長児としての自覚を育てていきたい。		○ 遊びや生活の中で、自分から進んでやってみようとする意気込みが見られる。友達や環境からの刺激を取り入れて、いろいろなことに取り組む意欲を育てていきたい。			
		○ 戸外で活動することを好み、活動量も多くなる。進んで体を動かす心地良さや楽しさを経験できるようにし、健康な体作りにつなげていきたい。		○ 気の合う友達と遊びを進めようとする気持ちが強くなるが、互いに主張がぶつかったり、考えが伝わらなかったりする状態が見られる。互いの考えに気づき受け入れようとする態度をはぐくみたい。			
発達		I 期		II 期			
月		4		5			
ねらい		○ 新しい環境に慣れ、保育者や友達といっしょに生活する楽しさを味わう。		○ 友達のつながりを深め、互いの思いを伝え合いながら遊びを進める。			
指導内容の視点		○ 年長児としての意識を持ち、友達との遊びや生活を楽しむ。		○ 夏の自然や身近な環境にふれ、見たり試したり考えたりして遊ぶ。			
		○ 身近な自然に接し、美しさや季節の変化に興味を持つ。		○ 自分の力を十分に発揮して運動や遊びに取り組む。			
		心と体の健康		○ 十分に体を動かして遊び、進んで食事をするを楽しむ。		○ 進んで戸外での遊びや水遊びに参加して十分に楽しみ、適切な休息の取り方に気づく。	
		人とのかかわり		○ 園生活での決まりを確認し、進んで守る。また、安全に気をつけて、遊具や道具を正しく使う。		○ 自分から気づいて、汗の始末や衣服の調節をする。	
環境とのかかわり		○ 新しい場や年長児としての生活のしかたや習慣を身につける。		○ 自分の体に気を持ち、健康な生活に必要な習慣や態度を身につける。			
		○ 災害時の危険を知り、合図や指示に従って行動する。		○ 保育者や友達と楽しく食事をし、健康な生活のリズムを身につける。			
		○ 友達といっしょに、いろいろな運動遊びを力いっぱい楽しむ。		○ いろいろな運動に興味を広げ、十分に体を動かし、ルールを守って遊ぶ。			
		○ 友達といっしょに興味のあることにかかわって遊ぶことを楽しむ。		○ 自分なりに目的を持ち、挑戦していかうとする。			
言葉の育ち		○ 生活の中で必要なことに気づいて自分でしようとする。		○ 遊びの中で自分の思いを伝え、相手の気持ちや考えをわかろうとする。			
		○ 年下の子どもに優しくかかわり、親しみをもち、年長になった喜びを味わう。		○ 夏ならではのいろいろな遊びを友達と楽しむ。			
		○ 人の役にたつうれしさを味わう。		○ 生活に必要な決まりを自分たちで考え、理解して行動する。			
		○ 身近な動植物に触れながら、愛情を持って世話をし、親しみをもち、自然物を取り入れて遊ぶことを楽しむ。		○ 身近に起こるいろいろな事象に関心を持ち、疑問に思ったことなどを試したり調べたりする。			
表現する力		○ 保育者や友達の話を注意して聞き、内容を理解しようとする。		○ 動植物の世話を通して、命あるものの存在に気づき大切にすること。			
		○ 自分の気持ちを相手にわかるように言葉で伝える。		○ 栽培物の生長に関心を持ち、収穫を楽しんだり、食する喜びを味わったりする。			
		○ 感じたことを自由に描く、作るなどして表現を楽しむ。		○ 公共の場での行動のしかたを理解して、公共の場でのルールを守り、みんなで気持ち良く生活できるようにする。			
		○ 友達と声を合わせて歌う気持ち良さを味わう。		○ 身近な用具の使い方に慣れ、安全に使う。			
環境構成の要点		○ 子どもたちと共に生活の場を作っていくことを大切にし、その過程を通して年長組になった実感が持てるようにしていく。		○ 気候に応じて、子どもの健康に配慮した1日の生活や戸外遊びが行なえるよう遮光ネットやパラソルなどを設置するなど環境の構成を工夫する。			
		○ のびのびと安定した気持ちで生活ができるように活動の流れに沿ってゆとりのある時間や場を構成していく。		○ 気の合う友達といっしょに活動を楽しめるよう、場の構成や時間の配慮をし、時間にゆとりを持つ。			
☆保育者のかかわり・援助(養護含む)		○ 年下の子どもとのかかわることができる場を計画的に作っていく。		○ 身近な自然物とふれあう中で、自分たちの興味や疑問を追究したり、継続して成長を見守ったりすることができる環境を構成する。また、生命の大切さに気づくことにつながるさまざまな体験ができる機会をつくる。			
		○ 預かり・延長保育では、ひとりひとりがゆつくりと過ごせるように個々に楽しめる玩具を用意し、家庭的なくつろげる空間をつくる。		○ 夏ならではの生活や遊びの環境を工夫し、午睡や休息をゆつくりと取れるよう配慮する。			
家庭や地域との連携(保育園・幼稚園・小学校との連携も含む)		☆年長組になった喜びと不安に揺れ動く気持ちをとらえて、ひとりひとりにていねいに応じて援助する。		☆友達とのつながりを深めるために保育者も仲間に加わったりアイデアを提供したりし、相手の気持ちを感じ取ることができるよう援助する。			
		☆年長組として、友達といっしょに体を動かしたり、戸外で十分に活動したりできるように、環境を整える。何かに挑戦したいと思っている気持ちや、役にたたい気持ちを確認していく。		☆子ども同士の間で気持の行き違いで味わう葛藤体験に十分に付き合い、子どもが自分で気持ちの切り替えをできるように援助する。			
苦手分野における活動例		☆年度初めは、担任や職員の入れ替わりがあるので、職員同士、円滑なコミュニケーションを取り合い、子どもひとりひとりの特徴や性格、家庭の状況などをしっかり把握して、安心して園生活が送れるようにする。		☆用具や道具を安全に使えるようひとりひとりの発達や生活を見通して援助する。			
		☆預かり・延長保育では、年長組になり、張り切って生活している姿を見守りながらも、甘えを受け止め、落ち着いて生活できるようにしていく。		☆自分の健康や体について関心を持ち、食べ物、運動、生活リズムの大切さなどに子ども自身が気づいて理解するよう援助する。			
		☆安心、安全、安定に支えられた園生活を基盤に年長児として自分で考え、判断して行動できるよう、友達と話し合いができる機会を大切にする。		☆気温や湿度が高いので、室温や通風に配慮し、水分の補給に十分に心がけ、熱中症の予防に配慮する。			
		○ 近隣の小学校の施設を利用したり連絡を取ったりして、小学生と交流を持つきっかけをつくる。		☆水遊びでは、水に十分に親ませるとともに、水の危険性についても伝えていく。			
		○ 年長組になって意欲的に生活する姿を知らせ、子どもの成長に期待や見通しが持てるようにしていく。		☆夏の疲れを感じるタイミングで、ひとりひとりの休息の取り方に柔軟に対応し、夏を健康に過ごせるようにする。子どもたちの体調については、家庭と連絡を密に取り合う。			
		○ 災害・緊急時の連絡方法や避難場所を確認する。		☆夏季期間中は、職員の入れ替えがあるので、日々の子どもたちのようすやアレルギーなどの配慮事項をていねいに伝え合い、安心して過ごせるようにしていく。			
		○ 家庭のようすを聞いたり、園での姿を伝えたりしながら、ひとりひとりの保護者との信頼関係を築いていく。		○ 保護者が子どもの成長を感じられるように、園便りや写真などで子どもの楽しんでいるようすを伝えていく。			
		○ 保護者会や保育参観、参加を通して、保護者同士のつながりをはぐくんでいく。		○ 家族と共に夏しか味わえないさまざまな経験をする機会をつくってもらい家事を手伝う場を作るなど、家族の一員として生活していくことの大切なことを話していく。			
		○ 生活リズムを整えていくことや、自立に向け認め励ましていくことの大切さを知らせていく。		○ 子どもが試行錯誤しながら育っていくようすを伝え、温かく見守りながら励ますことの大切さを理解してもらおう。			
				○ 降園後の交流が深くなっていくことから、園外でのトラブルや親同士の間関係などで悩む保護者の気持ちを十分に受け止めていく。同時に、困ったときは園に相談できるという信頼関係を大切にしていく。			
				○ 保護者の保育参加を通じて、親子の運動遊びなど、家庭での過ごし方やふれあい方について学べる機会を持つ。			

Ⅲ 期		Ⅳ 期		Ⅴ 期		
9	10	11	12	1	2	3
<ul style="list-style-type: none"> 力いっぱい体を動かすことを好み、自分なりの課題を持ってがんばろうとする気持ちが高まっている。また、みんなでひとつの目的を持って何かをやり遂げようとする姿が見られる。いろいろな運動遊びを通して、進んで物事に取り組む意欲をはぐくみたい。 生活経験が広がると同時に友達同士の会話が盛んになり、言葉の表現が豊かになる。自分が話すだけでなく、人の話を聞く態度を育てたい。 季節感を味わいながら、自然とじっくりかかわる体験を通して、感じる心を豊かにしたい。 地域の人々や高齢者と、ゆったりとかかわり、心を通わせる経験を大切にしたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 友達の考えにふれ、試したり工夫したりして新しい考えを生み出す喜びや楽しさを味わうようにし、みずから考えようとする気持ちを育てたい。 遊びの内容が豊かになり、また、友達の思いや考えを受け入れようとする姿が見られる。共通の目的を持ってグループの友達と考えたり工夫したりすることを楽しむ。みんなで取り組み、協力してやり遂げる喜びを味わうことを大切にしたい。 知的好奇心や探究心が高まり、さまざまなことに積極的にかかわろうとする姿が多くなる。思ったこと、感じたことを表現する意欲やイメージを実現する楽しさ、自然にかかわって感動する気持ち、知識を獲得する喜びを十分に味わうことを大切にしたい。 ひとりひとりが大切な存在であることを知り、互いに尊重し合う大切さに気づかせたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 生活や活動の見通しがつくようになる。もうすぐ入学という期待を持ちながら自分たちの生活や遊びを十分に楽しみ、自信を持って行動できるようになってほしい。 グループ同士が交流し、共に活動する中で、目的を共有したり、工夫したり、協力したりするようになっていく。 身近な自然事象や社会事象に対する関心が強くなり探究心を持って周囲の環境にかかわるようになる。みずから進んで行動するとともに、人の話をよく聞いて、自分の考えを深め、適切な方法で表現する力を育てたい。 よいこと、悪いことについて自分で考え、判断できるようにしていきたい。 				
<ul style="list-style-type: none"> 戸外で体を十分に動かし、友達といっしょに遊びや生活を進める楽しさを味わう。 身近な秋の自然や事象を見たりふれたりして、考えたり感動したりする。 感じたこと、考えたことを友達と工夫しながらさまざまな方法で表現する。 	<ul style="list-style-type: none"> 遊びや生活の中で、友達と共通の目的を持ち、工夫しながら活動に取り組む。 自分たちで考えたことを遊びの中で実現したり表現したりする楽しさを味わう。 	<ul style="list-style-type: none"> 健康な体作りに関心を持ち、生活のリズムを整えたり、好き嫌いを減らしたりして、健康な生活の習慣を身につける。 遊びの進め方を友達と話し合い、協力したりルールを守ったりして遊びに取り組む。 身近な自然の美しさや季節の移り変わりに関心を持つ。 自然物を使ってさまざまな遊びを楽しみ、素材の感触や物の質などに気づいたり調べたりする。 自分の生活に関係の深い情報や、地域の人々に関心を持ってかわり、親しみをもち、 身近な機器や用具の適切な使い方を知り、遊びに生かす。 生活の中の言葉や文字・記号に関心を持ち、自分たちの表現したいことを伝える手段として、取り入れて遊ぶ。 友達とやりとりを十分にし、思いを伝え合う。 さまざまな素材や用具を利用してイメージを実現しようとする。 自分たちで遊びの場を整え、身近に使う物を大切にしていかに扱う。 いろいろな美しい音、曲に耳を傾け、想像を豊かにしたり、自分たちで音を試したり楽しんだりする。 絵本や物語、経験したこと、想像を豊かに膨らませ、表現したり遊びに取り入れたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 園生活の中で、やっていいこと悪いことを自分で考えて場面に応じた行動ができる。 戸外で十分に体を動かし、友達といっしょにいろいろな運動遊びに取り組む。 自分たちで遊び方を考えたりルールを決めたりしてみんなで楽しむ。 トラブルや困ったことを自分たちで解決していこうとする。 食事の大切さを知り、マナーを守って楽しく食べる。 クラスやグループの中で役割を受け持ち、目的を持って遊びや生活を進める。 園の生活に見通しを持ち、時間を意識して行動する。 自分の成長を感じ、入学への喜びや期待を膨らませ、意欲的に生活する。 冬の身近な事象に関心を持ち、それを取り入れて遊んだり、変化に気づいたりする。 自分たちの生活の場をみんなで協力して作り出し、使いやすく整えたり飾ったりする。 さまざまな出来事の中で、イメージを膨らませ、感動したことを言葉や歌、絵など、さまざまな方法で表現し、伝え合う。 考えたことや感じたことをわかるように話す、相手の話を注意して聞く。 簡単な標識や文字、数、図形などに関心を持ち、考えたり、日常生活に取り入れて使ったりする。 材料や用具を目的に合わせて選び、のびのびと表現し、作品を大切に扱うとともに友達の表現にも関心を持つ。 音楽に親しみ、感じたこと、考えたことなどを、音やリズム、動きで表現する楽しさを味わう。 絵本や話などに親しみ、友達との対話をしたり、想像したりして楽しむ。 生活の中でリズムカルな言葉を使ったり、言葉の楽しさや美しさに気づいたりする。 生活を共にしてきた友達や年下の子どもや身近な人々と心を通わせ、大きくなった喜びを味わい、感謝の気持ちを持つ。 			
<ul style="list-style-type: none"> 興味や活動意欲の高まりを受け止めて、十分に活動できる広い場を確保する。園内外の場や地域の施設などの活用を考える。 固定遊具などについては、保育者が安全点検し、扱い方を正しく指導して、安全に配慮する。 運動会に向けての活動量を考慮し、預かり・延長保育では心身に負担感のない遊びができる環境や、休息を取れる場を作る。 秋の自然に十分に親しむとともに、収穫したり味わったりする機会を持つ。 	<ul style="list-style-type: none"> ひとりひとりの多様な取り組みを受け止め、知的好奇心や探究心が満足できるように、さまざまな素材を用意する。 体全体で自然にふれ、自然の中での遊びが満喫できるような場や機会をつくる。 地域の資源を活用している人々の仕事に関心を持てるような機会を持つ。 	<ul style="list-style-type: none"> 友達やクラス全体で、創作や表現を楽しめるような活動を取り上げ、協同する楽しさや充実感を味わえるような機会を設ける。 自然とふれあうチャンスを大切にし、発見したり試行錯誤したりする楽しさを十分に味わえるように環境を工夫する。 年長児として自分たちが誇りに思っている役割を、年中児にわかるように伝える。 小学校への接続を意識して、自分で考えて、場や時間に即した行動ができるように1日の生活の流れを工夫していく。 				
<ul style="list-style-type: none"> ☆遊びの中で、体のさまざまな動きが体験できる活動が生まれるような環境を構成する。 ☆夏の生活からリズムを立て直し、健康で安全な園生活を送れるようにする。 ☆活動意欲の高まりとともに出る競争心や達成感を認め、自信が持てるようにする。 ☆日々のさまざまな出来事についてひとりひとりの気持ちに添いながら、場面や機会をとらえて周囲の仲間に伝えたり、クラスで考えたりする。 ☆子どもたちが相談したり、協力したりできるよう、十分な時間を確保し、見通しを持って生活ができるようにする。 ☆子どもひとりひとりの成長のようすを見逃さず、安定して心地よく過ごせるようにしていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ☆クラスのひとりひとりが大切な仲間であり、かけがえのない存在であることを機会をとらえて気づいていけるようにする。 ☆作品展や生活発表会では、ひとりひとりから出てきたイメージを受け止め、実現できるように援助し、自分たちで取り組んだという充実感が味わえるようにする。 ☆自分たちで遊びに必要な場作りをし、目的に向かって考えたり工夫したりしながら充実感が持てるようにする。 ☆自分たちで考えて進んでいく活動を支え、実現できるように援助し、自信を持てるようにしていく。 ☆感染症予防・手洗いやうがいの大切さに気づかせ、自分から健康に過ごそうとする意識を持てるようにしていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ☆卒園までの時間を大切に、園生活を振り返り、気の合った仲間といえる楽しさやクラス全体がつながっている心地良さを子どもたちと共に味わう。 ☆クラスの中でひとりひとりのよさを認め合い、子ども同士のつながりがさらに深まるような援助をする。 ☆ひとりひとりが園生活を通じて培われた力や、自信・誇りを持って就学を迎えられるようにする。 ☆就学に向けて安心して小学校生活に移行できるよう、ひとりひとりの子どもの実態に即して、早寝・早起きの習慣などに配慮し、1日の園生活のリズムを整えていくようにする。 ☆非常時の訓練を重ねることを通して、子どもと約束を確認しながら、落ち着いて行動できるようにする。 				
<ul style="list-style-type: none"> ○ 小学校の行事に参加しながら、小学生との交流を図る。 ○ 運動会への取り組みのプロセスを保護者に伝え、子どもの成長する姿を実感し、共に喜び合う。 ○ 地域の人々や高齢者との交流にあたっては、事前・事後のこまやかな連携に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 園や家庭の情報を交換し、子育てを通して保護者同士の関係を深められるようにする。 ○ 年末年始の体験を通してあいさつのしかたやマナーなどをはぐくんでいけるよう、保護者に伝える。 ○ 就学時健診や小学生との交流を通して子どもの姿を保護者に伝え、保護者に見通しを持てるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 小学校の体験入学などに参加して、入学への期待を持てるよう、小学校体験入学の打ち合わせを小学校とていねいに連携する。 ○ 初めて就学を迎える保護者の不安が少なくなるよう、小学校と連携して交流のようすなどを知らせる機会を持つ。 ○ 生活習慣が身についているか確認し、生活習慣の自立に向けて援助していく。 ○ 子ども自身に伝達する力がはぐくまれるように、生活に必要な物を自分で用意することができるように園と家庭が協力する。 ○ 園生活を通じて培われた人間関係は、保護者や子どもにとって大切な宝であることを感じ合いながら、共に卒園を祝う。 				

